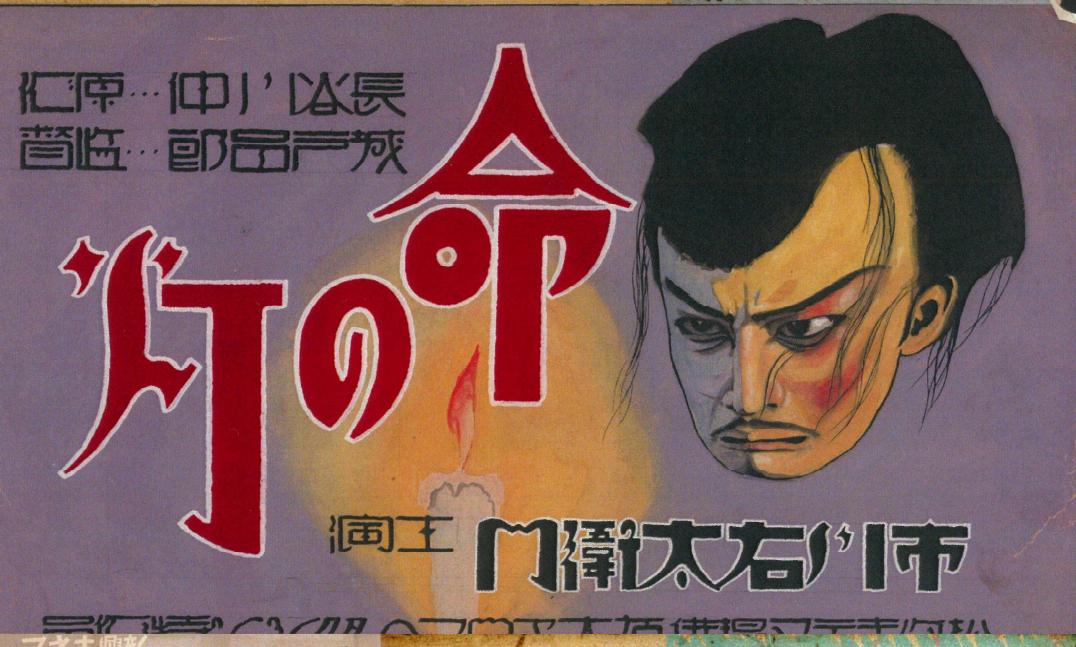


手書き映画ポスターと 看板の世界Ⅲ



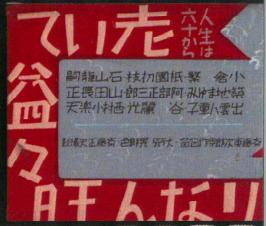
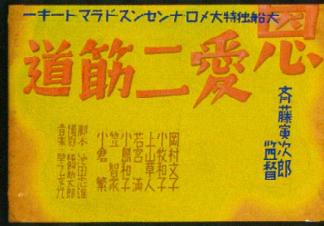
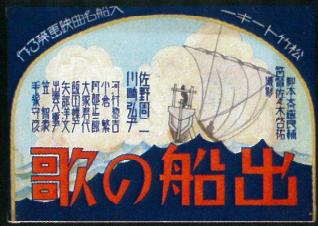
開催期間：2024年11月20日（水）～11月22日（金）

場所：立命館大学アート・リサーチセンター

開館時間：午前10時～午後5時

展示内容：1936年から1937年の間に松竹大船撮影所で制作された映画の劇場内用手書きポスターを展示

入場無料



【口上】

映画がサイレントからトーキーに移る昭和のはじめごろ、京都の町中の映画館では劇場内に上映中や予告宣伝用に手書きのポスターが飾られていました。当時は殆ど毎週のように映画が封切られておりましたので、そのポスターの数も相当なものだったと想像できます。

今回はその中から松竹座、夷谷座など松竹系の映画館用に描かれたポスターの内、

松竹大船撮影所で制作された作品のポスターを展示いたします。

描いたのは当時から歌舞伎で有名な京都南座のまねき看板を手掛けっていた竹田耕清（猪八郎）。

映画に合わせて構図やタッチ、書体などを駆使して描かれた手書き映画ポスターの世界をお楽しみください。

また今回は同じ映画の劇場製作のオリジナルポスターとマッチラベルとの比較展示も行います。

同時に昭和30～40年代の京都の映画館地図および映画館の絵看板写真もご覧頂けますので、

そちらの方も懐かしんで頂けましたら幸いです。

【説明】

今回展示いたしますのは京都の映画看板製作所「タケマツ画房」が所有していた手書きポスターで、1928年から1940年頃までに京都の中心街にあった松竹系の劇場に飾られていたものです。

当時はほかの映画館でも同様のポスターが飾られていたと思われますが、

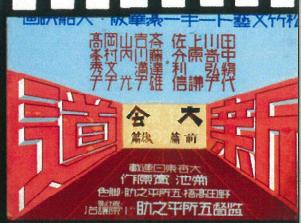
現在現物を確認できるのはこれらのポスターのみとなっており、当時の映画館の雰囲気を知る上で非常に貴重な資料だと言えます。

所蔵枚数は約800枚ほどで、全て松竹系の劇場にかかっていた作品です。

今回は3回目の展示として、1936年～1937年に

「松竹大船撮影所」で制作された作品の手書きポスター約60点を中心に展示いたします。

その他、京都の松竹系映画館のマッチ広告や劇場製作のオリジナルポスターとの比較展示も行います。



手書き映画ポスターと看板の世界Ⅲ

開催期間：2024年11月20日（水）～11月22日（金）

開催場所：立命館大学衣笠キャンパス内 アート・リサーチセンター

〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1

開館時間：午前10時～午後5時

主催：研究拠点形成支援プログラム「京都ストリート文化アーカイブの構築と発信プロジェクト」、

科研費基盤研究C「昭和期の映画館文化に関するノンフィルム資料アーカイブの構築」、

立命館大学アート・リサーチセンター

料金：無料

お問い合わせ：075-466-3411（立命館大学アート・リサーチセンター）

企画：研究拠点形成支援プログラム「京都ストリート文化アーカイブの構築と発信プロジェクト」、

科研費基盤研究C「昭和期の映画館文化に関するノンフィルム資料アーカイブの構築」

協力：城陽市歴史民俗資料館（マッチラベル提供）、南明弘（ポスター提供）、映像学部09ゼミ、遊び実装研究会

